

令和5年10月5日

豊小学校学校関係者評価委員会

委員長 梅本澄雄



## 【第1回学校関係者評価委員会】

- 1 実施日 令和5年9月15日
- 2 会場 豊小学校相談室
- 3 参加者

## (1) 学校関係者評価委員

| No. | 氏名     | 役職                       | 備考   |
|-----|--------|--------------------------|------|
| 1   | 梅本 澄雄  | 元本校校長                    | 委員長  |
| 2   | 吹野 武文  | 元豊地区主任児童委員               | 副委員長 |
| 3   | 荻野 和彦  | 豊地区自治会会長                 | 欠席   |
| 4   | 齊藤 尚子  | 元本校校長                    |      |
| 5   | 津久井 豊徳 | 豊地区教育振興会会長・元校長（楡形中）      |      |
| 6   | 築野 一彦  | 小中一貫教育推進協議会委員・元校長（白根百田小） |      |
| 7   | 中込 宏   | P T A会長（保護者代表）           |      |

## (2) 学校職員（3名）

| No. | 氏名     | 役職   | 備考          |
|-----|--------|------|-------------|
| 1   | 井上 武人  | 校長   | 本校在籍1年目     |
| 2   | 横山 啓二  | 教頭   | 本校在籍3年目／事務局 |
| 3   | 相田 由希子 | 教務主任 | 本校在籍4年目     |

## 4 学校から提案された内容

- (1) 教職員による前期自己評価アンケートの状況
- (2) 学校生活に関する前期児童アンケートの状況
- (3) 豊小学校前期自己評価書（アンケートの分析及び改善方策について）

## 5 協議内容・意見

## ○豊小学校前期自己評価書に対する考察

(教職員・児童アンケートの考察／改善方策に対する検証)

## (1) 学校経営・組織について

- ・業務内容、行事の在り方等について、精選が必要になってくる。軽重を付けて工夫していく必要がある。

## (2) 学習指導について

- ・「聴くこと (input)」はよくできている。一方で「人に伝えること (output)」は、まだまだである。聴くことがまず一番であり、その次に自分のなかで咀嚼して表現する。言語活動を続けていけば、人に伝える力の育成が図られるのではないだろうか。
- ・学習では「聴くこと」がとても大事なことであって、聴きたいことをもとに、頭で考えて発言することは、大人でもなかなか難しいことである。言語活動に取り組むときに、「失敗しても次にはがんばるぞ」という気持ちをもたせながら、一歩ずつ教育活動を進めていってほしい。
- ・コロナ禍で話し合い活動が行われていなかったことも要因であろうが、話せる環境ができてくれば、「自分の考えを伝えている」の評価は良くなっていくと思う。豊地区の地域性として、おっとりしていて、発言することにも控えめなところがあるだろうが、入学したころはなかなか

あいさつができなかった子が今では大きな声であいさつができるようになったように、地域とのふれあいでも子どもは少しずつ変わっていく。地域の人的・物的資源も活用した学習指導の工夫を続けていくことで、「伝える」力がついていくと思う。

- ・地域ふれあい道徳公開の授業を参観した。どの教室でも「めあて」が示されていた。「めあて」は初めに示すばかりではなく、途中で示すこともある。授業を進めていく中で子どもが意識できるようにすることも大切である。教科や授業の内容によって、形を工夫していったほしい。また、「ふり返り」を大切にしていることや授業に活かされていることも分かった。
- ・普段手を挙げない子は、発言する機会を得ることで自信をもつ。先生方が（その時間に）初めて手を挙げた子を指名し、発言してよかったと思える経験をさせることは自己肯定感を高めることにつながるだろう。
- ・反射的に答えられる子もいれば、じっくり考える子もいる。発言力とは、すぐ答えられるということではなく、課題に向き合っているかどうかということも見極めたい。また、机間巡視であたりをつけて発言させるのもよい。
- ・道徳の授業を参観した。子どもが資料を読み、教師が資料を読み、みんなに問うている場面であったが、和やかに話し合いをしている。上級生ほどよく発言していた。教師はよく勉強しなければだめである。教材研究をすることで、子どもは「学校が楽しかった」と思うようになる。

### (3) 生徒指導・生活指導について

- ・親が、自転車・ゲーム機・スマホを買い与え、それに関わるルールは学校が担いがちである。保護者とコミュニケーションをとり、協力して指導・支援にあたってほしい。
- ・学校は生活指導の面でも期待されているが、学校と家庭、地域がそれぞれの役割をしっかりと果たせるようなすみ分けを示すことが大切である。
- ・スマホやゲーム等についてのルールを家庭で決めていると思うが、「ルールを途中で変える」というルールが大切である。軌道修正をどうするかを話し合うことも親子のコミュニケーションになる。親と子が一緒に考えることで、共に成長していくことになる。

### (4) 保護者・地域との連携について

- ・朝、正門のところで旗振りをしているが、子を送ってきた保護者の中には、頭を下げてあいさつをする人が増えてきている。会う機会が大切だと思う。毎朝、学校長等が正門で出迎えていることが、児童にとっては大事にされていると思える場面でもある。毎日の積み重ねが、安心安全が守られていると感じられることにつながっている。
- ・8月に実施したPTA早朝作業に、保護者だけでなく、親子で参加してくれている家庭もあった。また、「見守り隊」として地域の方が協力してくれている。学校・保護者だけでなく、地域でも学校の教育活動を支えてくれている。そういう良いところを伝えていくことで、また周囲の方々が様々な活動に協力してくれるようになる。

### (5) 小中一貫教育について

- ・楕円スタンダードの無言清掃について、「無言」ということが重視されていないか。形や規律として続けていくということではなく、「学校をみんなできれいにする」という気持ちで取り組めることが大切である。

### (6) その他について

- ・掲示物や廊下の活用が素晴らしい。普段の環境整備ができています。
- ・先生たちと子どもたちが楽しく学校生活を送っていると思っている。学校だよりも地域に配付されているが、学校の様子がわかる。文字ばかりでなく、写真やレイアウトが工夫されている。
- ・学校は「安全」が大切。「教育」は先生方に任せるが、「安全」に関わる点については、地域も協力していきたい。